

2011年 第1102号
7月15日 (毎月15日発行)
1972年9月18日 第三種郵便物認可

地域と人権

発行 全国地域人権運動総連合
(「解放の道」改題)

〒116-0003 東京都荒川区南千住2-16-6

TEL (03)5615-3395 FAX (03)5615-3396

全国人権連ホームページ: URL=http://zjr.sakura.ne.jp/

和歌山

憲法を暮らしに活かし、住みよい地域社会に



第7回 地域人権問題全国研究集会



オープニングは勇壮な清姫太鼓

全国地域人権運動総連合と和歌山県実行委員会が主催した第7回地域人権問題全国研究会が6月25、26の両日、和歌山県白浜町で全国から1200人が参加して開かれました。和歌山県での全国研究会は全解連当時の開催から11年ぶりです。1日目の全体集会の記念講演は女優の有馬理恵さんが「差別と戦争をなくすために」と題して一人芝居と講演で、差別への怒りと人権の尊さ、平和を語りました。

全体集會に先立って地 主権者挨拶で丹波正史 元「清姫太鼓」が全国から 全国人権連議長は東日本 大震災と東京電力福島第 一原発や貧困問題の深刻

ささふれ、これまでの価値観を大転換させ、地域社会で人権が確立するた めに、「地域権利憲章」を組織の総意でまとめあげ、国民の暮らしと権利を守るルールある経済・社会づくりを呼びかけました。北條哲生和歌山県 実行委員長は、3・11の 大震災と原発事故は日本の 歴史に記憶される年になり、本研究集会のテーマ「憲法を暮らしに活かし、住みよい地域社会を」が討議される意義は大きいものがありますと歓迎の挨拶。

来賓あいさつで日本共産党の宮本岳志衆議院議員が「憲法を暮らしに活かし、住みよい地域社会を」が討議される意義は大きいものがありますと歓迎の挨拶。

来賓あいさつで日本共産党の宮本岳志衆議院議員が「憲法を暮らしに活かし、住みよい地域社会を」が討議される意義は大きいものがありますと歓迎の挨拶。

来賓あいさつで日本共産党の宮本岳志衆議院議員が「憲法を暮らしに活かし、住みよい地域社会を」が討議される意義は大きいものがありますと歓迎の挨拶。

来賓あいさつで日本共産党の宮本岳志衆議院議員が「憲法を暮らしに活かし、住みよい地域社会を」が討議される意義は大きいものがありますと歓迎の挨拶。

来年は京都開催で 第8回記念集会

来年2012年は全国水平社が京都・岡崎公会堂で創立してから90周年に当たる記念の年。全国人権連は地元の人権連京都府連に開催を打診、同府連が承諾。90周年にふさわしい内容として、戦前の全国水平社運動から戦後の部落解放全国委員会、部落解放同盟、部落解放同盟正常化連、全国地域人権運動総連合までの運動を歴史的に総括する必要があるので、今年3月の新綱領で「差別糾弾闘争」を採択、国家機関が「差別糾弾」を合法化する「人権侵害救済機関設置法」の動きに警戒を呼びかけました。(4面詳細)

本流

第7回地域人権問題全国研究会の記念講演は俳優の有馬理恵さんの講演

「ごとき大事にする町」とユーモアいっぱい歓迎あいさつ。(来賓名は別途紹介)
有馬理恵さんの講演の後、日本近代史研究者の廣畑研二氏が「知られざる水平運動史、水平の行者来須七郎」と題して特別講演。新井直樹人権連事務局長が基調報告のなかで「解同が今年3月の新綱領で「差別糾弾闘争」を採択、国家機関が「差別糾弾」を合法化する「人権侵害救済機関設置法」の動きに警戒を呼びかけました。(4面詳細) 日常のテレビからでは想像できない被災地、原発避難地の現状を映し出した▼真実の報道がいかに大切であるか、この間の福島原発破壊の内実と対応でより実感させられる。「原発は危険極まりない」と警告してきた科学者たちの声を無視してきたマスコミ。災害報道は熱心だが原発破壊の原因探求はほとんどない。その一方で自衛隊員に密着取材。感情を誘導し過大評価、そして本来の自衛隊の役割から国民の目を逸らさせる▼原発ゼロにむけた取り組みも各地で始まった。報道各社には国民の「知る権利」に応える報道姿勢が求められる。(S)

差別と戦争一掃を熱演

有馬 高2の差別体験で人生観変わる



火葬場労働の目線で社会の差別構造を描く水上勉原作の『釈迦内柩唄』をライブワークにこれまでに全国で447回演じてきた女優の有馬理恵さんが「差別と戦争をなくすために」震えるような怒りの奥底にすぎると題して一人芝居とトーク

火葬場労働の目線で社会の差別構造を描く水上勉原作の『釈迦内柩唄』をライブワークにこれまでに全国で447回演じてきた女優の有馬理恵さんが「差別と戦争をなくすために」震えるような怒りの奥底にすぎると題して一人芝居とトーク

火葬場労働の目線で社会の差別構造を描く水上勉原作の『釈迦内柩唄』をライブワークにこれまでに全国で447回演じてきた女優の有馬理恵さんが「差別と戦争をなくすために」震えるような怒りの奥底にすぎると題して一人芝居とトーク

火葬場労働の目線で社会の差別構造を描く水上勉原作の『釈迦内柩唄』をライブワークにこれまでに全国で447回演じてきた女優の有馬理恵さんが「差別と戦争をなくすために」震えるような怒りの奥底にすぎると題して一人芝居とトーク

主催者あいさつ

全国地域人権運動総連合議長 丹波 正史

第7回地域人権問題全国研究集会にご参加のみなさんに心から敬意と感謝のあいさつをいたします。この集会は、「憲法を暮らしに活かし、貧困の解消へ 役割を終えた『同和』対策は終結を」

を統一テーマに、地域人権確立をめざす運動の一翼として開催されています。私はまず東日本大震災で犠牲となられた方々への深い哀悼とともに、被災された方々に心からの慰め、復興の基本的なタンスを人権という立場から構築し、住民合意と民主主義を貫くこと、そのために「生活再建と地域社会の再建こそ、復興の土台」と位置づける必要があります。また、原発事故の収束に総力を



あげるとともに、原発問題での国民的な合意形成を図ることです。さらに、国民の暮らしと権利を守る「ルールある経済社会」をめざす運動を大きく前進させることです。こうした「国難」ともいえる状況を国民的な力で克服していくことも、地域社会で人権が確立するために、「地域権利憲章」を組織の総意でまとめあげ、これをバネにして地域住民運動の本格的な前進を図らなければなりません。

ばなりません。いま日本は少子高齢社会の到来のもとで、人類が経験したことのない社会構造の激変に直面し、この中で貧困問題の深刻化、人口の減少、単身世帯の急増など、これまでに人権問題のあらわれ方と異なった新たな人権問題が社会的に噴出し、これに社会運動が大きな担い手となる必然性があるといえます。私達が部落解放運動から地域人権運動へ発展させた中で蓄積されてきたさまざまな経験と実績を深く分析し、ここから地域人権運動の今後の発展方向を明確に打ち出していく時期にさしかかっています。

本集会は、大震災と原発事故という未曾有の危機にある中で、これまでの価値観を大きく転換させ、国民が主人公の社会システムの構築に貢献するとともに、社会構造の激変に直面している地域社会と家族のあり方に建設的な方向性を打ち出すことになると確信しています。集会成功のために絶大な協力をいただきたい和歌山県の皆さんに感謝し、この二日間有益な学習と交流の場になるものと確信します。

主催者あいさつ

第7回地域人権問題全国研究集会和歌山県実行委員長 北條 哲生

全国各地から第7回地域人権問題全国研究集会に参加の皆さん、和歌山にお越しくださいました。現地実行委員会を代表して心より歓迎いたします。

まず東日本大震災で犠牲となられた方々への深い哀悼とともに被災された。想像を絶する光景に日本中が言葉を失いました。震災で人々は家族や知人を失い、家と働く場所を失

津波による甚大な被害のうえに、福島原発事故の被害がくわわり、その被害は「国難」ともいえます。戦後未曾有の規模に達しています。こうした状況を一日も早く脱するために、復興の基本的なタンスを人権という立場から構築し、住民合意と民主主義を貫くこと、そのために「生活再建と地域社会の再建こそ、復興の土台」と位置づける必要があります。また、原発事故の収束に総力を



た。想像を絶する光景に日本中が言葉を失いました。震災で人々は家族や知人を失い、家と働く場所を失

い、生活を失いました。フクシマでは原発が停止するどころか避難する人が増加しています。この災害で被災地だけでなく私たちも生きることは、家族とはなんだろう。働くとは、生活するとはどういうことか。国とは、国民を守るとはどういうことなのか。と様々なことを自分に問い直したのではないのでしょうか。すべてを失い、生存そのものが脅かされている被災地が一日も早く、安心と希望がもてる生活を取り戻してほしい、そ

来賓あいさつ

和歌山県知事代理 企画部長 柏原 康文

第7回地域人権問題全国研究集会が、ここ白浜町で盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。さて、21世紀は、戦争という最大の人権侵害が繰り返された20世紀への反省を込めて「人権の世紀」と呼ばれています。また、ご参加の皆様方におかれましては、日頃から人権問題の解決と人権尊重の社会づくりに向

が、政治と行政の役割ではないでしょうか。復興にも地方自治・民主主義・民主主義が原則で、その一番の力となるのが日本国憲法であり、その力を引き出すのが国民のたたかいです。日本の歴史に記憶される年に、まさに本研究集会のテーマ「憲法を暮らしに活かし、住みよい地域社会に」が討議される意義は大きいと考えます。

本研究会が全国各地の経験から学び合い、運動が広がることを祈って歓迎の挨拶とさせていただきます。

第7回地域人権問題全国研究集会が、ここ白浜町で盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。さて、21世紀は、戦争という最大の人権侵害が繰り返された20世紀への反省を込めて「人権の世紀」と呼ばれています。また、ご参加の皆様方におかれましては、日頃から人権問題の解決と人権尊重の社会づくりに向

けて、日々熱心に取り組まれていることに対し、心から敬意を表する次第です。さて、21世紀は、戦争という最大の人権侵害が繰り返された20世紀への反省を込めて「人権の世紀」と呼ばれています。また、ご参加の皆様方におかれましては、日頃から人権問題の解決と人権尊重の社会づくりに向



尊敬と権利とについて平等である」という理念のもと、国においては人権に係る法律の整備や様々な施策

が実施されるなど、21世紀を「人権の世紀」にふさわしいものとするための取組が進められています。しかしながら、近年、児童及び高齢者への虐待や女性への暴力、インターネット上の人権侵害など、より対応の強化が求められる問題に加え、職場におけるハラスメントなど、新たな問題が発生しています。

最後になりましたが本研究集会の開催にあたり関係の方々多大なるご尽力に深く敬意を表するとともに、ご参加の皆様方の今後益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。ご挨拶いたします。

ごあいさつを頂いた来賓の方々

前列左から

- 日本共産党衆議院議員 宮本岳志氏
- 和歌山県知事(代理) 和歌山県企画部長 柏原康文氏
- 和歌山県白浜町長 水本雄三氏
- 部落問題研究所常務理事 尾川昌法氏
- 国民融合全国会議事務局長 大同啓五氏